先生はお若いころからいくつかの持病がおありで，その一つに「オオシカン閉塞」というのがあった．エウスタキオ管を欧氏管と呼んだ時代の病名である．低気圧が近づくと，このために中耳と外界の気圧に差ができて頭が痛くなると先生はおっしゃる．なぜか先生の「オオシカン閉塞」にはビールが特効薬で，症状が出始めると「ビールでも一杯」と夕食に誘ってくださる．天気の悪化はうれしくないが，雲行きが変わると弟子どもは「ビールでも一杯」を密かに期待し，ミクロトームの手順を早めに切りあげる準備をしたものであった．行先は本郷だけでなく神保町や銀座にまで及んだが，決して新しい店を開拓することはなく，いずれも先生の古くからおなじみの店であった．

これは，一つのことを長い年月にわたって研究なさったこととも符合する．その典型的なあらわれが「芝棟」（八坂書房，1991）の出版である．わら屋根の棟にイワヒバ，イチハツ等を植えて固めとする様式に関する著作で，全く類書がなく，建築史学や民俗学などの人達からも絶賛を得ている．少年時代に東京近郊で見たのが興味の発端で，それ以来折にふれて記録を続けられたが，退官までは本腰を入れて調査する余裕がなかったとおっしゃり，その後，奥様の運転で各地を精力的に探訪して得られた膨大な資料を整理して出版されたものであるから，この著作にはおよそ4分の3世紀の年月がかかっている．

このような大仕事を成し遂げられて，急に老け込んでしまわれるかと心配する声もあったが，先述のとおり次の著作に意欲を燃やしておられ，大いに期待していたところ，突然の訃報に接した．晩年の先生を悩ませ続けた帯状疱疹の痛さから解放されて，苦しみのない世界へ旅立たれた先生は，天国でどんな写真を撮っていらっしゃるのだろうか．

（福田泰二・杉山明子）

新　刊

□堀　輝三編：**藻類の生活史集成 第二巻 褐藻，紅藻類** xix＋345 pp.＋51 pp. 1993 内田老鶴圃，東京．¥8,240．**同上 第三巻 単細胞性，鞭毛藻類** xvii＋313 pp.＋62 pp. 1993 同上．¥7,210.

良く知られているように，藻類は体制は単純であるが，生活環は複雑である．例えば，緑藻には生活環の基本となるタイプは少なくとも5つはあり，褐藻には4つある．そして紅藻には3つはある．それらを環境とのかかわりでみると，さらに複雑となる．藻類全般にわたって生活史の全貌を把握するのは容易でない．

藻類を材料にして細胞構造の研究を行っている編者は，生活史や生活環を知ることは，藻に対する理解の基本として必須であるとして，藻の生き方や一生を知りたい人々のために，500余種を選び編纂したと言う．第二巻には171種が47名により，第三巻は146種が32名により，それぞれ生活史の図解と記述がされている．なお，第一巻は緑色藻類で185種を含み，1994年内に刊行予定の由である（定価8,240円）．いずれもB5判の見開き左側のページ一杯に生活史の図を掲載し，対面ページに（I）参考，関連文献（II）生活史，生活環の解説，問題点その他（III）採集方法，利用状況，培養法など，及び（IV）英語による図の説明を記述している．内容は視覚により容易に理解出来るので，必要に応じて見るほかに，暇な時に時間にまかせてページをめくるのもよい．専門家だけでなく，広く藻類に興味をもつ人は座右におくと便利であろう．学校や研究所の図書館にも備えたい書物である．一つ気になることは，当該種や近縁種で核相が未だ明かでない種にRD, n, 2nなどの記号があったり，明かな種になかったりの点である．助言に，“未知であろう…その現状を示すとともに…次代に引き継ぐ問題の提示をも心がけた”とあるだけに，改訂の際の一考が望まれる．

（千原光雄）

□川嶋昭二編著：**日本産コンブ類図鑑** 8 pp.＋214 pp. 1989．北日本海洋センター．¥13,000．**同上 改訂普及版** xxvii＋206 pp. 1993．北日本海洋センター．¥4,800.

コンブ科植物は，日本では，特に北海道沿岸を

中心に，計40種近くの生育が知られるが，そのモノグラフの研究は古く宮部金吾博士による“昆布科：1–60，北海道水産調査報告巻之三”北海道殖民部水産課刊行（1902）（この書は後に英文に翻訳され On the Laminariaceae of Hokkaido の題名で1957年北海道大学農学部より出版されている）がある程度で，その後まとまった研究や出版物はなかった．著者の川嶋博士は道立水産試験場在勤の頃に，北大理学部時代の恩師山田幸男教授よりコンブ類の研究を強く薦められ，同時に数十葉のコンブ類の単彩画の提供を受け，爾来この藻群について注意を払ってきたが，特に1985年定年退官後はコンブ類研究に専心してきたという．本書には千島列島産5種を加え合計39種類のコンブ類が収録され，それらのほぼすべてにA4判変形の1ページ大の図があり，さらに学名，異名，分布，形態，生態，その他の特徴，製品用途，学名の解説，および図の説明の解説文が添えられる．最近コンブ類は，食品や海中林の構成海藻あるいはウニやアワビの餌料としてだけでなく，生理活性物質探索の対象あるいは新しいバイオマス利用資源としてなど，多くの注目を浴びるようになっている．本書は，著者が願ったように，単なる分類図鑑としてだけでなく，もっとコンブを知りたい人，あるいはコンブ利用の実際に携わる人達にも優れた参考書となるであろう．本書はまた日本産コンブ科植物の分類学研究の集大成でもある．この学問分野への寄与は極めて大きく，先の宮部博士の場合のように，英文版の刊行が期待される．

（千原光雄）

□西澤一俊：**海藻と成人病予防** 183 pp. 1993. 研成社，東京．¥1,300.

著者は先に同じ出版社より「海藻の本—食の源をさぐる—」と題する本を出版したが，今回は，健康食品や成人病予防の観点から海藻を記述したもので，幾つかの項目をあげると，海藻に含まれるアルギン酸の血圧調節機能，ラミニンと血圧，フコステロールの血圧低下能と抗血液凝固活性，海藻の食物繊維，褐藻の有機型ヨウ素，緑藻，褐藻，紅藻のヘパリノイド，血糖値を低下させるオバクサタンパク質，海藻のビタミンと抗生物質，海藻のミネラル成分と有効性などがある．著者はよく薬理実験や疫学的調査などのデータを集め，成人病予防によい海藻主要成分とその機能について解説している．ともすると難解な記述になりがちな領域であるが，広く一般向けと言うことで，解説は平易で理解しやすい．類書に乏しいだけに貴重な出版物と言える．

（千原光雄）

□Ohno M. and Critchley A. T. ed.: **Seaweed Cultivation and Marine Ranching** 151 pp. 1993. Kanagawa International Fisheries Training Centre, Japan International Cooperation Agency (JICA). ソフトカバー ¥2,000, ハードカバー ¥2,500.

日本は古くから海藻をよく利用する国であり，そのことから特に利用出来る海藻についての応用研究は盛んで，ノリ，ワカメなどをはじめとする海藻栽培の技術は諸外国の追随を許さないものがある．しかし残念なことにその技術を解説した本のほとんどすべては日本語版であり，日本人以外の目に触れることは少なかった．本書は，海藻栽培と利用の理論と実際を研修するために来日する開発途上国の人々の Training Course 用に，JICA の援助を得て作られたもので，執筆者は9名（うち日本人5名，フィリッピン人3名，南アフリカ人1名）で，11章から成る．日本の海藻栽培が中心であるが，外国，例えばフィリッピンのキリンサイ栽培なども紹介され，各章は次のようである．序論－海藻資源，ヒトエグサとアオノリの養殖，クビレズタ，コンブ，ワカメ，オキナワモズク，ノリ，キリンサイと *Kappaphycus*，オゴノリ属，人工海藻礁の造成，海草と海洋牧場におけるその役割．最近，寒天やカラゲーナン原藻としての海藻，健康食品としての海藻，生理活性物質探索源としての海藻ということで，海藻に注目をもつ外国人も少なくない．時宜を得た刊行物である．なお購入希望者は高知大学海洋教育研究センター大野正夫氏（781-11 高知県土佐市宇佐町井尻194）に直接申し込むこと．

（千原光雄）

□Bird C. J. and McLachlan J. L.: **Seaweed Flora of the Maritimes 1. Rhodophyta—the Red Algae** v +177 pp. including 65 plates. 1992. Biopress Ltd.,